

二〇二二年九月一日(参加者二〇名)

外厠明かるうしたる花木槿

せいじ

底紅を秘むる蕾や小間茶室

わかば

御神木樹齡千年法師蟬

よし子

長雨を抜けし日差しやつくつくし

うつぎ

みんなが鳴けば法師蟬黙す

やよい

白むくげ日々新たなる朝迎ふ

はく子

一休みして又鳴きはじむ法師蟬

たか子

人住まぬ旧家の木槿大樹なる

明日香

合宿の夕餉支度やつくつくし

素秀

地謡はもうるずなんぬ法師蟬

うつぎ

朝まだき声とのはぬ法師蟬

明日香

威儀正し入る山門法師蟬

みづぎ

法師蟬厨の吾を急かすやに

こすもす

師の句碑へ鳴き継ぐ寺のつくづくし

やよい

遠来の友との一会つくつくし

もとこ

補聴器を外せば法師蟬間遠

よう子

満開に咲いても寂し白木槿

よし子

登廊にとどく間遠の法師蟬

ぼんこ

底紅に雫残りし暁の雨

素秀

恙なきひと日に感謝白木槿

満天

昼暗き里の林道法師蟬

みづぎ

WEB句会みのる選・二〇二二年九月一日